

○本木忠一委員長 続いて、無所属の質疑を行います。

なお、質疑時間は答弁を含めて五分です。佐藤剛太委員。

○佐藤剛太委員 教育についてお伺いします。

まず、政策「社会を生き、未来を切りひらく力をはぐくむ教育環境をつくる」についてお伺いします。

学校で学んだことが子供たちの生きる力となって、明日そして将来につながってほしいと思っております。成長する子供たちにとって、学ぶ教育の時期はととても大切な時期です。しかし、政策を構成する施策は、二つともやや遅れていると評価されており、内容は余りいいものではありませんでした。取組の改善が必要と考えますが、成果について当局の見解をお伺いします。

○伊東昭代教育委員会教育長 新・宮城の将来ビジョンにおきまして、政策推進のための施策として、「多様で変化する社会に適応し、活躍できる力の育成」と「安心して学び続けることができる教育体制の整備」を掲げているところでございます。子供たちが夢や志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を育成するための志教育の実践や、子供たちが安心して学び続けるための教育体制整備については、おおむね順調に進められたと認識しておりますが、県全体の学力の底上げ、体力・運動能力の向上に課題があり、また、登校していない児童生徒への教育機会の十分な確保に至っていないことから、政策・施策の評価として、やや遅れているところがございます。成果につきましては一層の充実を図り、課題となる基礎的・基本的な知識・技能の定着、登校していない児童生徒への支援等については、児童生徒の実態を十分に踏まえた上で、市町村教育委員会と連携し実効ある取組に力を入れてまいりたいと考えております。

○佐藤剛太委員 子供たちは、多様化する社会の中を生き抜くために学校で学んでおりますが、教員も問題が多様化しております。先ほど言いましたように学力向上、不登校、コロナ対策など様々出ている中、教員の皆さんはこの多様化する問題に対応できているのか、現状と支援体制についてお伺いいたします。

○伊東昭代教育委員会教育長 変化の激しい将来社会を生き抜く力を育むため、新しい学習指導要領が示され、また、子供たちを取り巻く環境が多様化している中で、学校や教職員には多くのことが求められていると思っております。これまでも、教職員は御指

摘の学力向上など様々な課題の解決に向けて取り組んできているところですが、変化の激しい時代にあります。教職員にとって不易とされる資質能力に加え、自律的に学び続ける力や新たな課題への対応力が必要であると考えております。県教育委員会といたしましては、体系的に研修の充実を図ってきたところですが、今後もニーズに応じた内容を取り入れながら教員の資質能力の向上を支援していくとともに、こうした課題に対応するためには専門スタッフと連携したチームとしての学校を実現していくということも重要でございますので、管理職のマネジメント力の向上にも更に力を入れてまいりたいと考えております。今後とも教員一人一人の資質向上を図るとともに、学校全体がチームとなって子供たちの成長を支えることのできる環境づくりに努めてまいります。

○佐藤剛太委員 学力についてお伺いします。

全国学力テストが全てではないですが、宮城県において今年度の実施結果も出ておりますが、昨年度においても全国平均と比べて学力が劣っているという結果が数字として出ておりますので、改善に向けた取組が目で見える結果で反映される必要があると思いますが、そのことについて当局の見解をお伺いします。

○伊東昭代教育委員会教育長 委員お話のとおり、全国学力・学習状況調査において、全国平均に届いていないということで、学力向上は我が県の継続した課題であると捉えております。県教育委員会では、学力向上マネジメント支援事業を実施しており、児童生徒のつまずきを解消するところに力を入れて、一人一人確実に学習内容を定着させて進級・進学させる取組を継続しております。成果も見られているところでございますので、これを広げていって結果に反映できるように、事業の推進を進めてまいりたいと考えております。